

第8回東アジア教員養成
国際シンポジウム
(於東北師範大学)

教師の専門職性と授業研究
—日本の学校と授業研究—

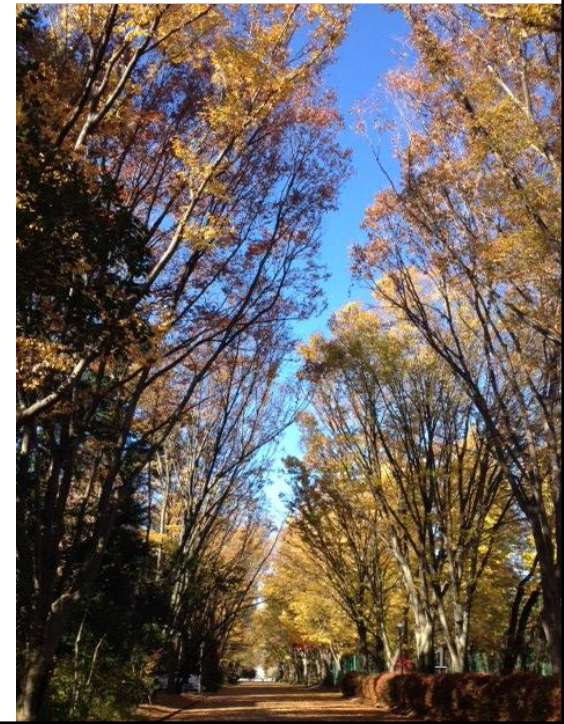
- I. 日本では、なぜ授業研究がはじまったか
- II. 授業研究と教師の力量形成
- III. これからの授業研究と教師教育

2013. 9. 25

東京学芸大学

教員養成カリキュラム開発研究センター

三石初雄(hatsuo@u-gakugei.ac.jp)



日本の教師の職場

小学校
全学年を担当



全同一職員室・学年ごとの集団



4年語文組

海外からみた日本の授業研究の特質

(J.W.Stigler & James Hiebert 『The Teaching Gap』1999)

- 1) 教科・学年を超えて集まる**職員室を設置**(協同的職場環境)
- 2) 小学校は1年から6年まで担当(**教師経験の広さ**)
- 3) **同一内容**での授業(**共通的**学習内容・指導要領を制定)
- 4) 授業案作成・授業参観・授業記録と分析・紀要の作成
(**継続的研修サイクル**)
- 5) 授業分析の共通的分析視角(子ども・教材・教師)、共通言語
(教案、発問、公開研究会、授業研究会・・・)の**共有**

均質で質の高い
勤労者の育成？

<特徴>

- 教師研修を支える道具やシステムという**学習環境**の存在
- 学び合う組織やルール**、規範を歴史的に形成・継承
- 授業研究の意義の共有と教育ビジョンの**共有化**

(1945年以前) 公開研究会での研究授業公開や 授業方法の検討

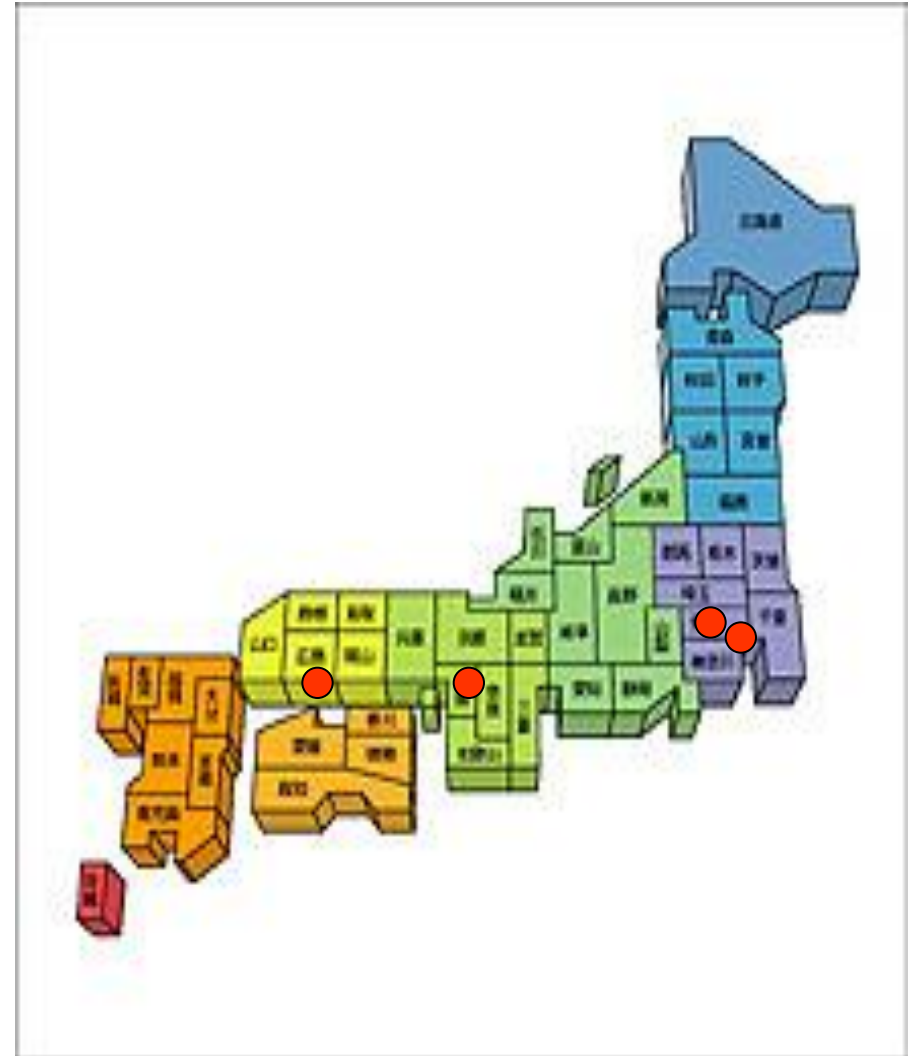
○全国師範学校・高等師範
学校の附属小学校での定
例公開授業研究会の開催

○師範学校との人的繋がり
のある地域有名学校での
研究授業会の開催

* ● は高等師範学校

・1872年 師範学校・附属小学
校の創設

・1897年 高等師範学校・附属
小学校創設



戦前「師範学校」の位置

○地域で優秀な青年が進学

・学費無償

・全寮制・・・・奨学制度

*前後の1980年代まで在職

●教養・広い視野から離れた教育

●「教導」「鍛錬」教育活動が基本
主に「教育方法を教える」教育

●師範学校は中等教育という規定

師範学校は「教える」ところで、教育内容や教育方法を改良する能力を「育成」という発想は乏しい


教育方法としての
授業の研究

* 敗戦に伴う戦前の教員養成制度への厳しい反省

授業研究の定着・継続化

○授業研究の形態とその継続性(サイクル)

- 1) 学校教育計画の提出(前年度末)
- 2) 学年・学校でのプラン作成(目標設定)
- 3) 研究授業の実施
- 4) 研究授業の検討
 - ・授業者の省察、相互意見交換
- 5) プランの再提出
- 6) 報告書づくり・・・次年度への引き継ぎ
 - ・この中心が、研究主任(中核的教員)



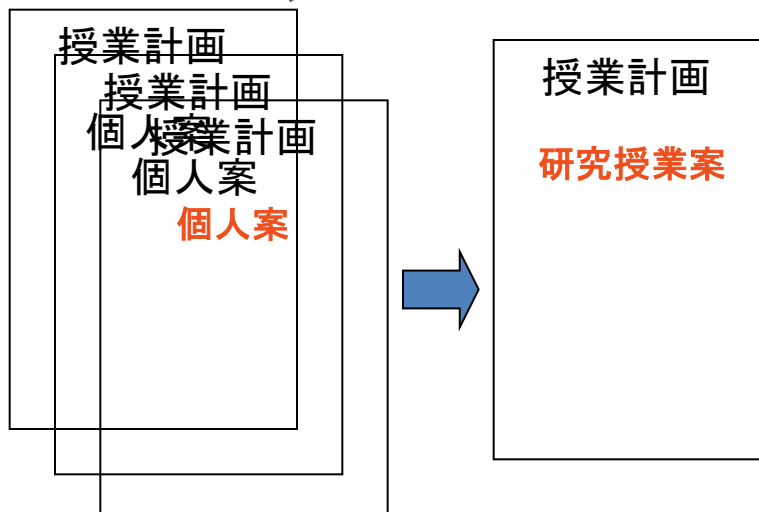
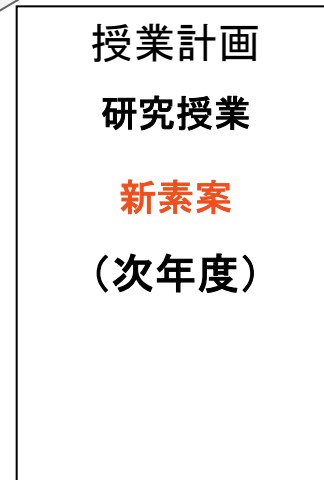
一つの理想的授業プラン追究！！

授業研究の恒常性

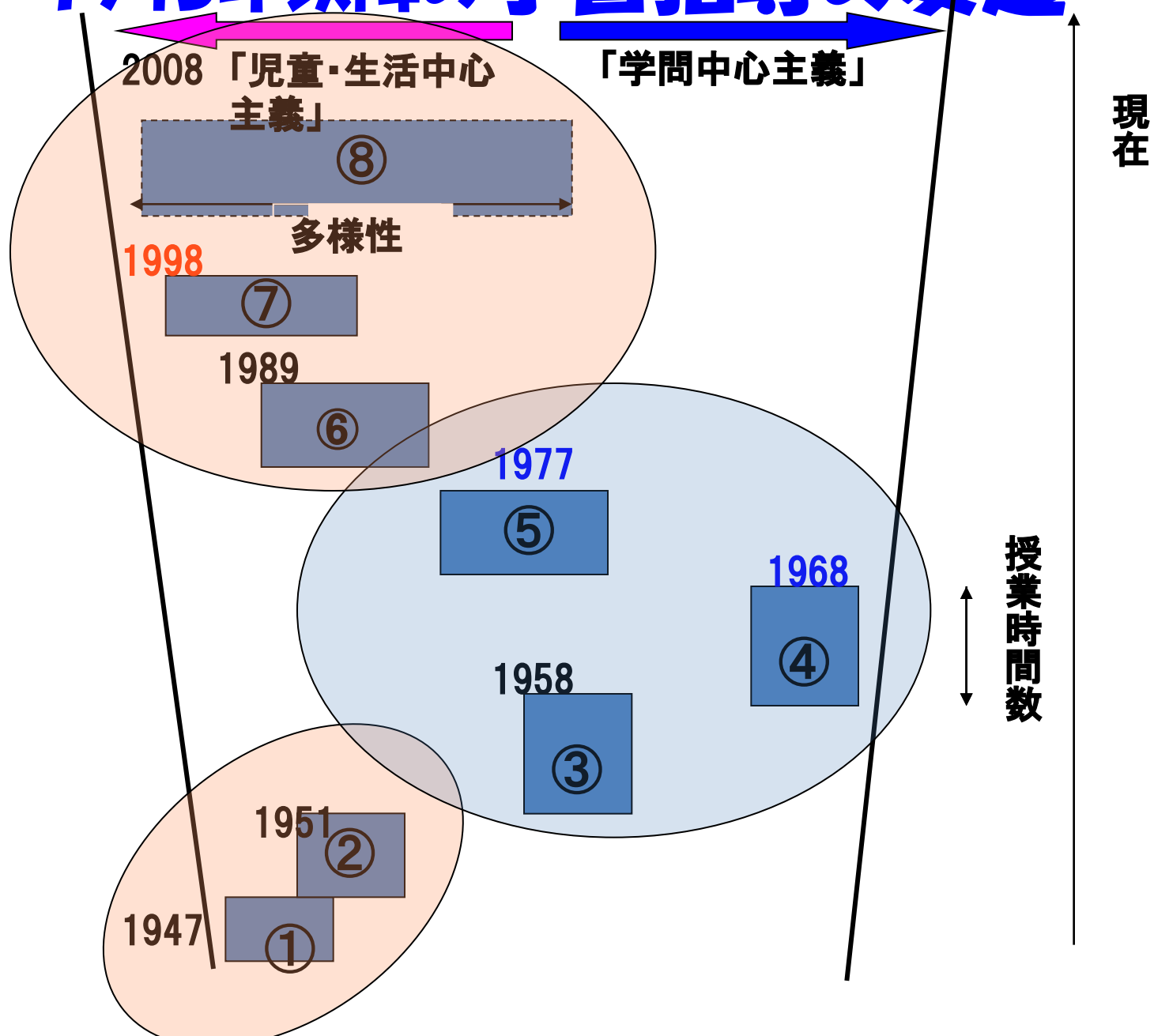
・・・定型化（耐教師性・Teacher Proof）

○授業研究の形態とその継続性(サイクル)

- 1) 学校教育計画の提出(前年度末)
- 2) 学年・学校でのプラン作成(目標設定)
- 3) 研究授業の実施
- 4) 研究授業の検討
 - ・授業者の省察、相互意見交換
- 5) プランの再提出
- 6) 報告書づくり・・・次年度への引き継ぎ
 - ・この中心が、研究主任(中核的教員)



1945年以降の学習指導の変遷



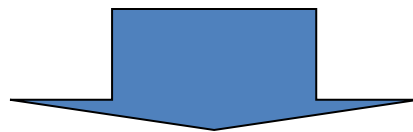
第二次世界大戦後の学校教育の枠組み

○「学習指導要領」を手引として、各学校の教育課程（カリキュラム）を編成することを奨励

→担当する眼前の学習者に合わせて、教育内容や方法を創出できる力量が必要

→学校を基盤とした教育課程開発の許容と期待

→授業研究（現職研修）の時間と自主的研修の保障

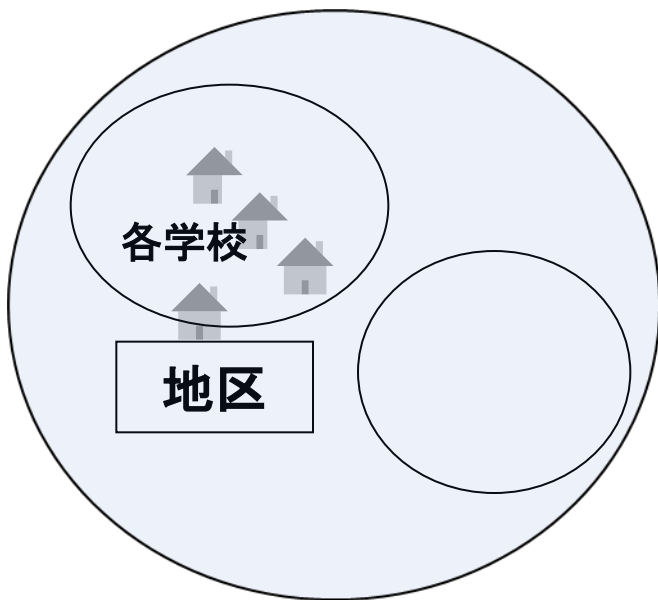


○教師の自主的研修（民間教育研究集会、各種研究会・サークル、組合教育研究集会等々）

○教育委員会主催の現職研修（研修休暇・補助がある）

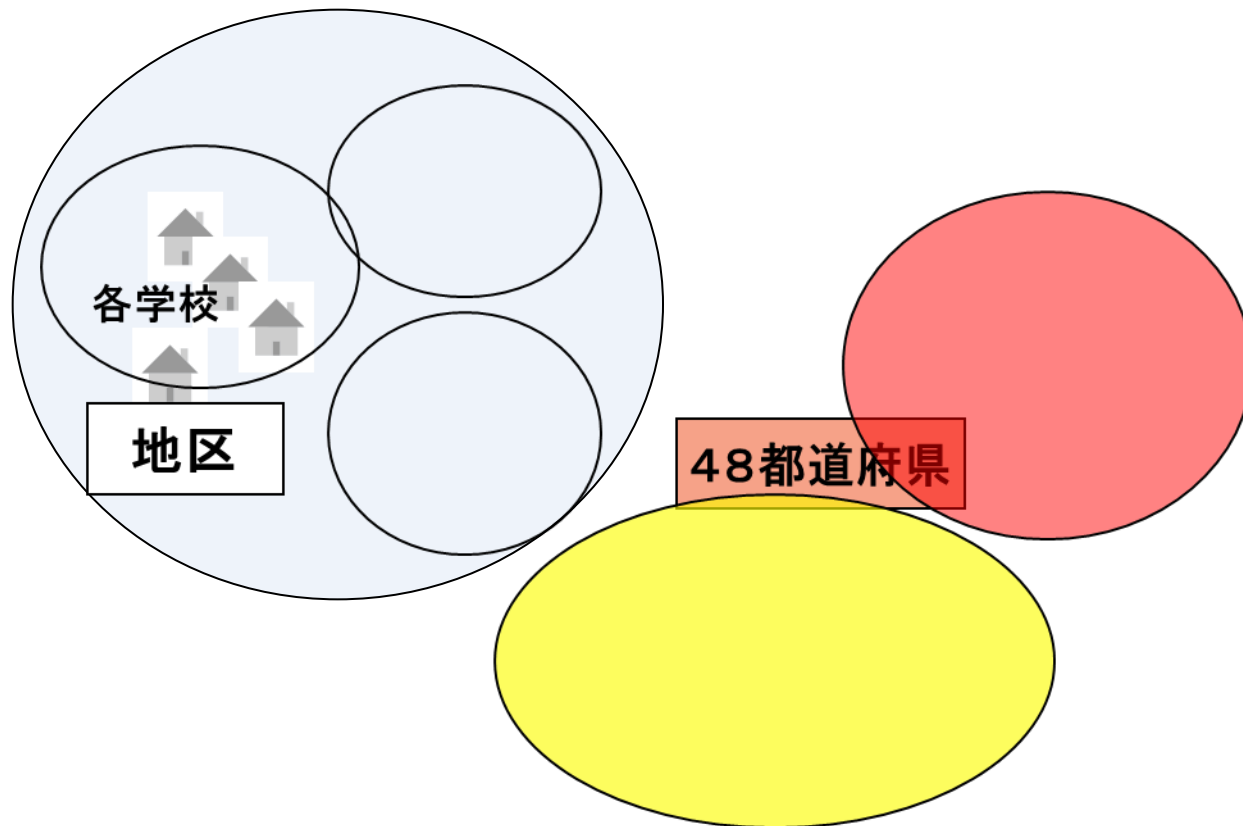
教育実践検討制度の普及

—教師の専門職性の維持と充実のための環境—



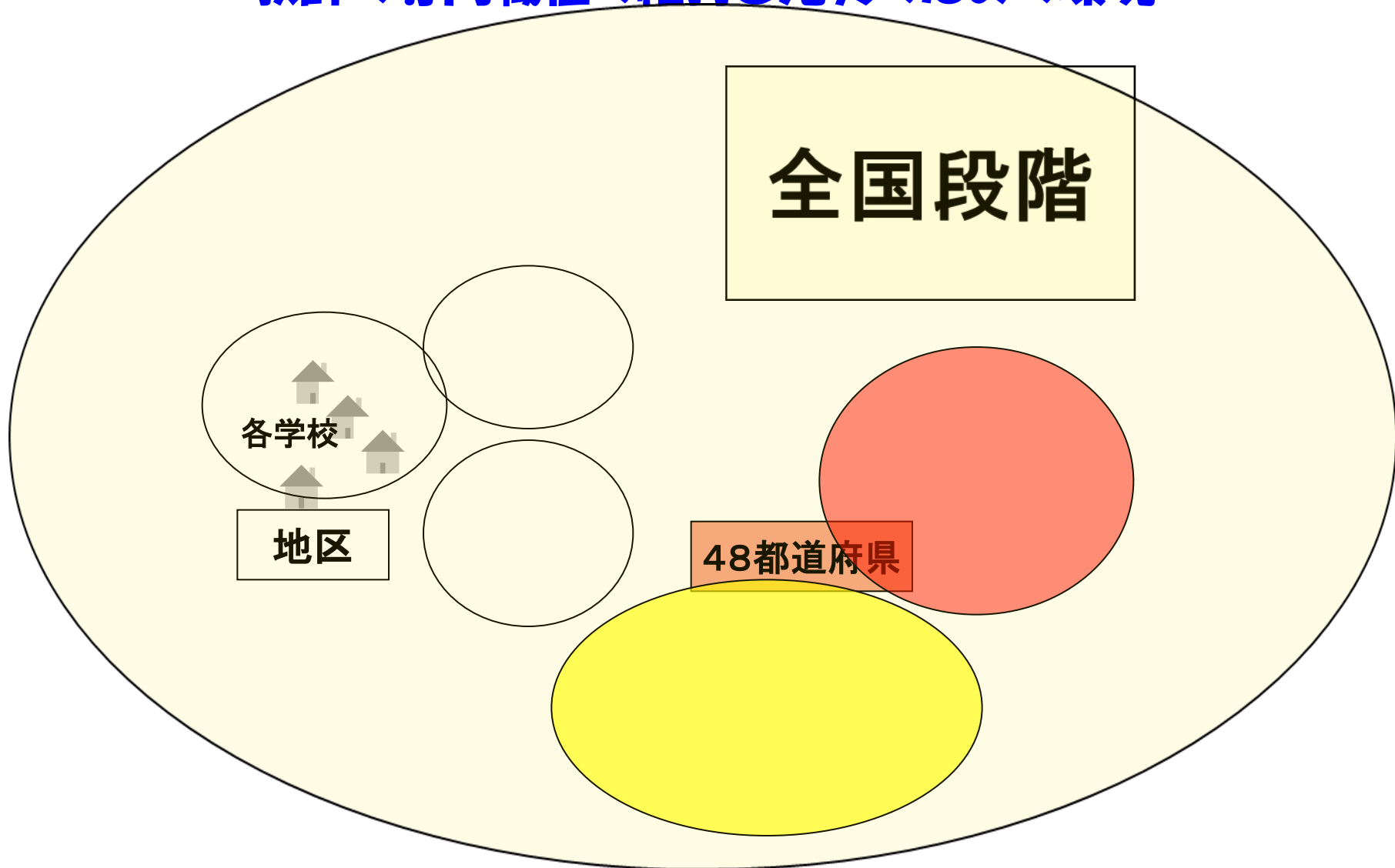
教育実践検討制度の普及

—教師の専門職性の維持と充実のための環境—



教育実践検討制度の普及

—教師の専門職性の維持と充実のための環境—



教育実践研究ネットワークの普及

—教師の専門職性の維持と充実のための環境—

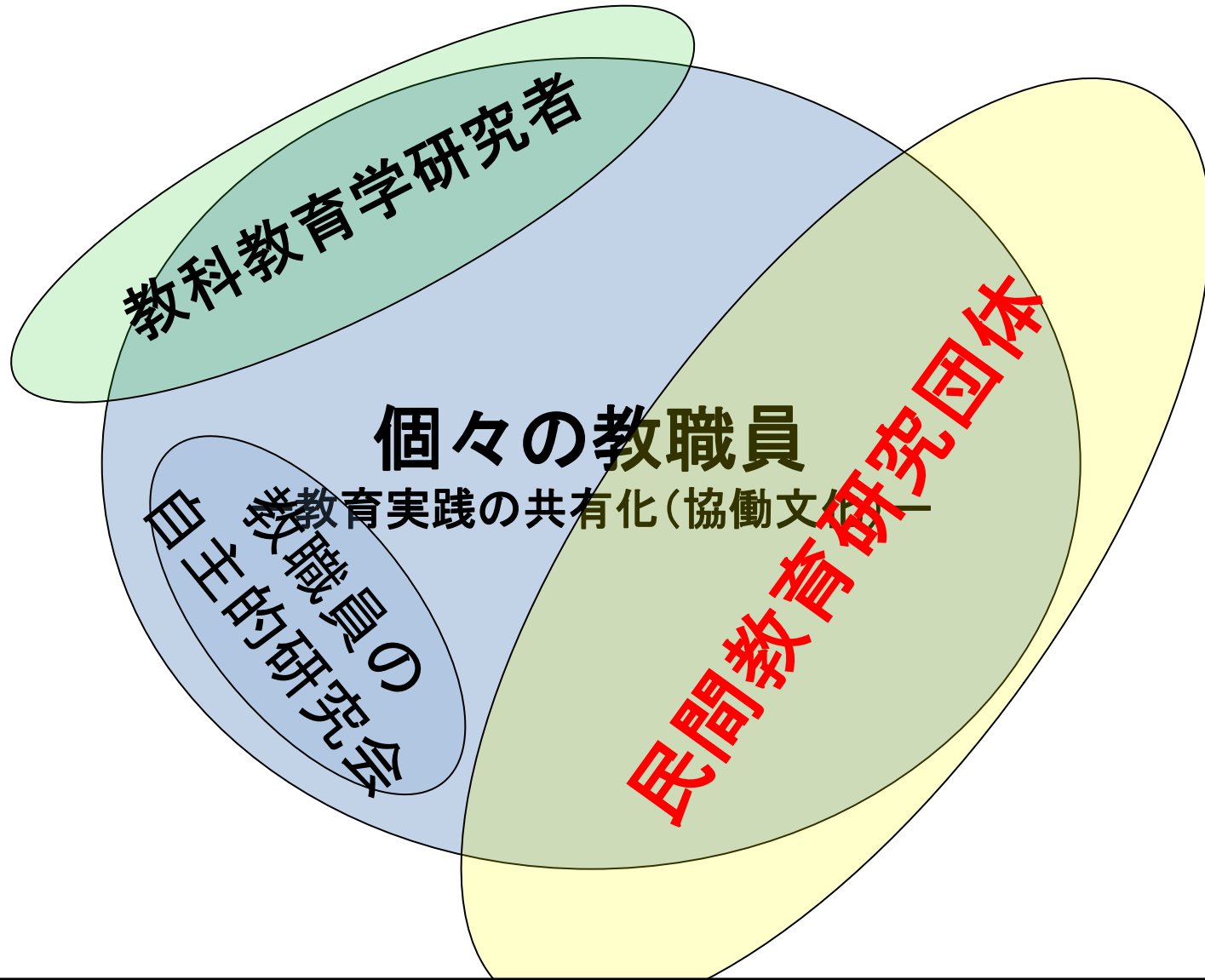
個々の教職員

—教育実践の共有化(協働文化)—

教職員の
自主的研究会

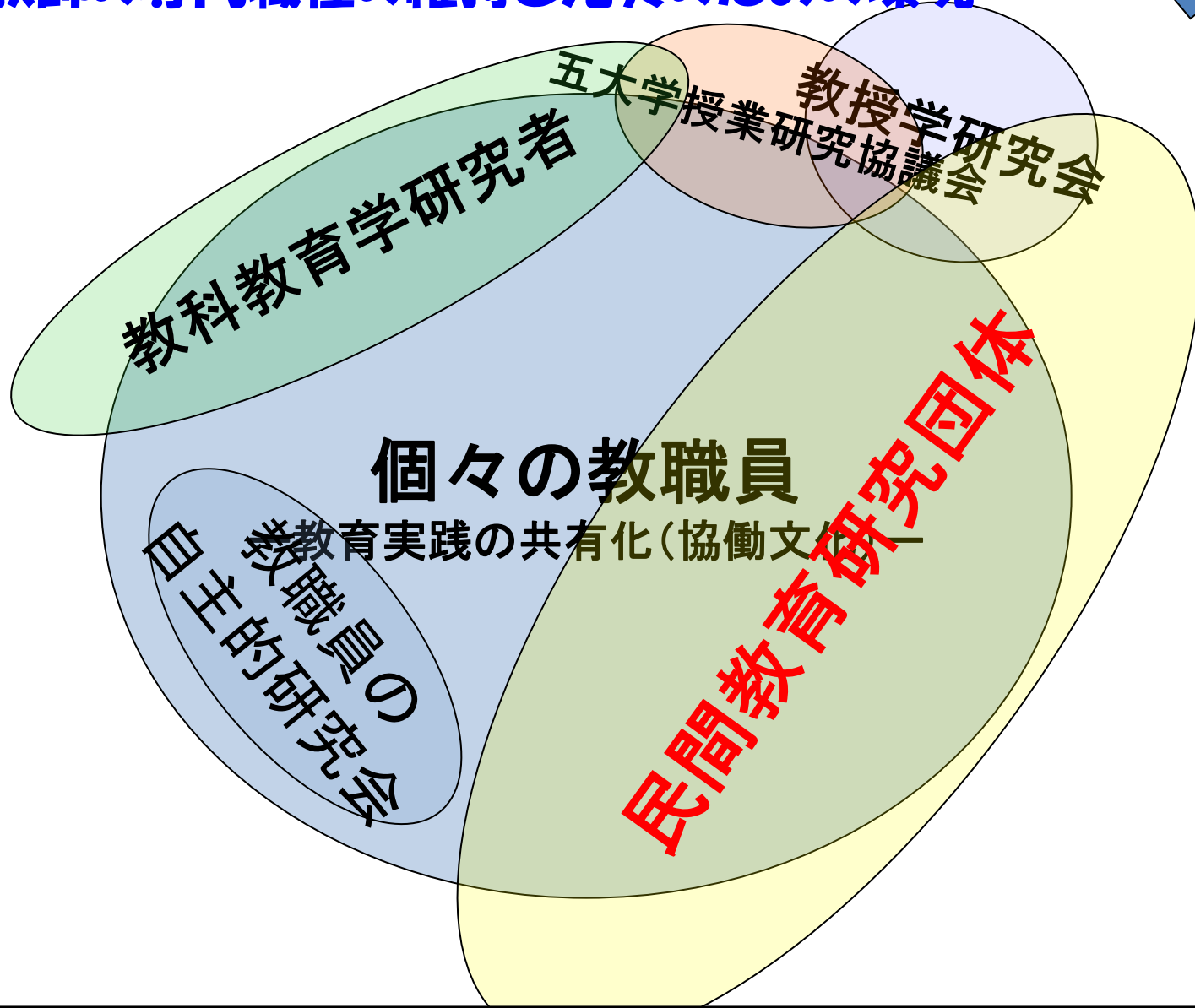
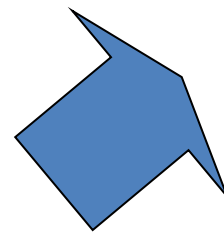
教育実践研究ネットワークの普及

—教師の専門職性の維持と充実のための環境—



教育実践研究ネットワークの普及

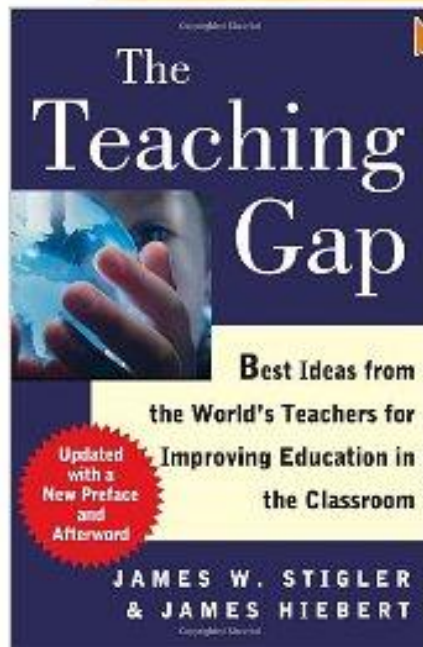
—教師の専門職性の維持と充実のための環境—



数学授業231件の日独米の国際比較

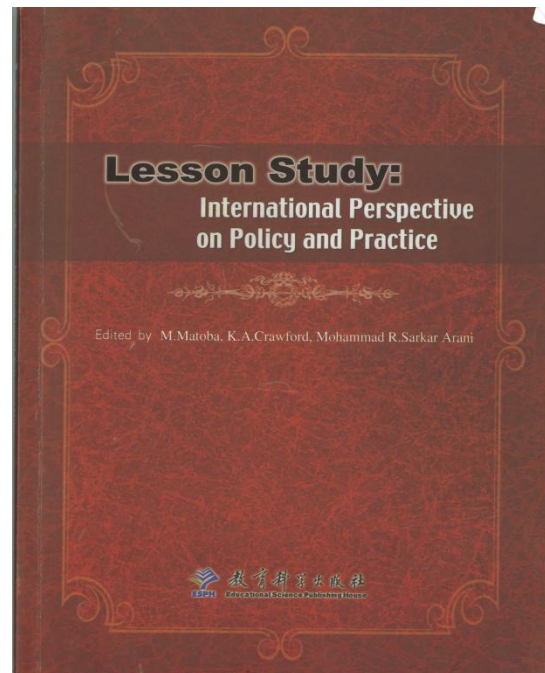
(TIMSS1995 『日本の算数・数学に学べ』湊三郎訳)

日 本	ア メ リ カ	ド イ ツ
①前時の授業の見直し	①前時までの題材の見直し	①前時までの題材の見直し
②今日の問題の提示	②今日の問題をどう解くかの演示	②今日のトピックと問題の提示
③生徒が個人かグループで問題に取り組む	③練習 (Practicing)	③問題を解くための手続きの開発
④解決方法を議論する	④シートワークを確認し宿題を与える	④練習 (Practicing)
⑤まとめ (各自 or 全体)		



アジア・世界の授業研究

1. 『教学研究』
的場正美等編
教育科学出版社（北京）
2006.7
（中国・台湾・香港・
韓国・イラン・日本 等）



2. 『THE TEACHING
GAP』1999（『日本の算
数・数学教育に学べ』2002）
3. WALS 2011 (WORLD
ASSOCIATION OF LESSON
STUDIES) 「世界授業研究学
会東京大会（東京大学,2011）

1. 東北師範大学UGSモデル

—大学(U)と地方政府(教育委員会)(G)と各地学校(S)との連携—

1) 実験区教育実習の意味

- ・教科指導実習の十分な確保
- ・教科グループでの検討会実施
- ・実習生＋指導教師＋大学教師のAR(action research)
(省察的実践研究)
- ・PDCA(計画・実践・検討・評価)の繰り返し

2) 東北師範大学による現職研修の意味

- ・大学での各種研修(校長等管理職・中核的教師、現職教師)
- ・現地での研修の授業研究の実際的指導

豊かで多様な授業研究の探究 —安達市・授業比較研究—

○同じ学習単元・教材・テーマを3教師で模範授業

事例＝伝承文学「七夕伝説」を国語で授業する(中国・安達市)
小学校6年「牛郎」と「織女」

- A. 地域の女教師＝文章事例を読ませて、何が書いてあるかを想像し合う・主に文章と日常生活をつなぎ合わせ
- B. 附属小学校男教師＝先ず全文章を読ませ、何が書いてあるかノートに書く(15分)。グループ内の友の文を読み(10分)、意見交換をする(10分)。自分の考えたことをノートに書く
- C. 有名附属小学校女教師＝牛郎は農民、織女は神様の子どうして夫婦になったのだろうか、をテーマに授業



授業の多様性・教師の創造性啓発(理想授業を求め多様な授業研究)を求めだけでなく許容)

教育実践の
研究論
実法
探究



2. 教育実践研究方法論の探究

1) 学問・芸術希求モデルと即実践モデルをどう繋げるか

- a) 学問・芸術を身につけるとよい教師が育つか？
 - ・・・「予定調和」的教員養成論、研究的実践開発能力強調
- b) 「即実践」を強調する教員養成論
 - ・・・「教師は現場で育つ」論、教育方法・教授方法に傾斜

2) 実践そのもの、実践成果をどう評価するか

- ・テスト等で評価できない(しきれない)、行為・行動・演技等の評価方法の開発
- ・パフォーマンス評価(ルーブリック評価法)等の研究
- ・教師の専門職性(抽出)研究(EX. PCK研究)

教職専門性の育成とそれを促進・保証する

教員養成プログラム開発と評価の独自の解明

* new teacher proof の創出へ？

3. 教師の専門職研究

PCK (= Pedagogical Content Knowledge)

Shulman, L.

- 「教育内容に関する知識」「教育方法に関する知識」の「特別な混合物」
- 「教授学的専門の知識」(1987、*Knowledge and teaching*)
- Grossmanの規定 = 「教材を教えることの構想と目的」「カリキュラムに関する知識」「指導の方略に関する知識」「生徒の理解に関する知識」等々

(八田幸恵、森敏昭・秋田喜代美翻訳監修 『授業を変える』)

4. 「熟達化」研究からの示唆

○「熟達者」における2つの異なるスタイル

a. 「手際の良い熟達者」(職人的熟達者)

→定型的な問題の解決方法を記憶し、それを利用することによって問題を解決するスタイル

b. 「適応的熟達者」

→定型的な解決方法だけでなく、自分で柔軟に適切な材料と方法を考え、組み合わせて創造的で適応性をもつスタイル

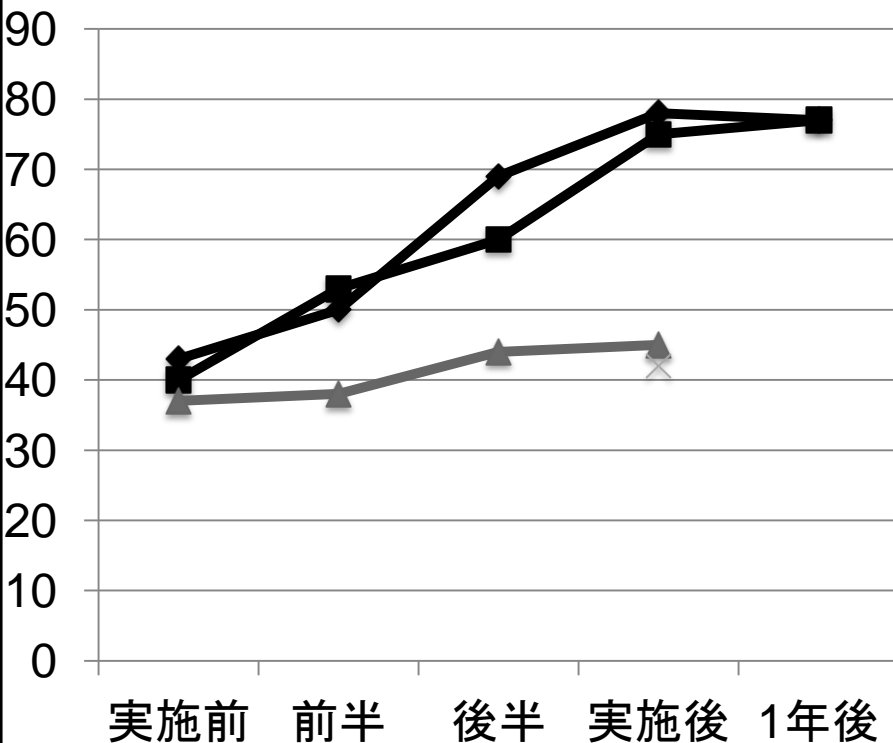
(波多野誼余夫・稲垣佳世子 1983)

(『How People Learn』)

1人学びに終わら 相互活動の中での学び

- 質問した子が納得するまで、解決過程の説明援助をわかるひとから受け続けること
- 類似問題で利用してみる等

“テキストを読み、質問、言い換え、文相、質問活動の有無”による理解深化機能(Brown, 1997)



- ◆ 互恵的教授明示群
- 互恵的教授暗黙群
- ▲ 練習群
- × 統制群

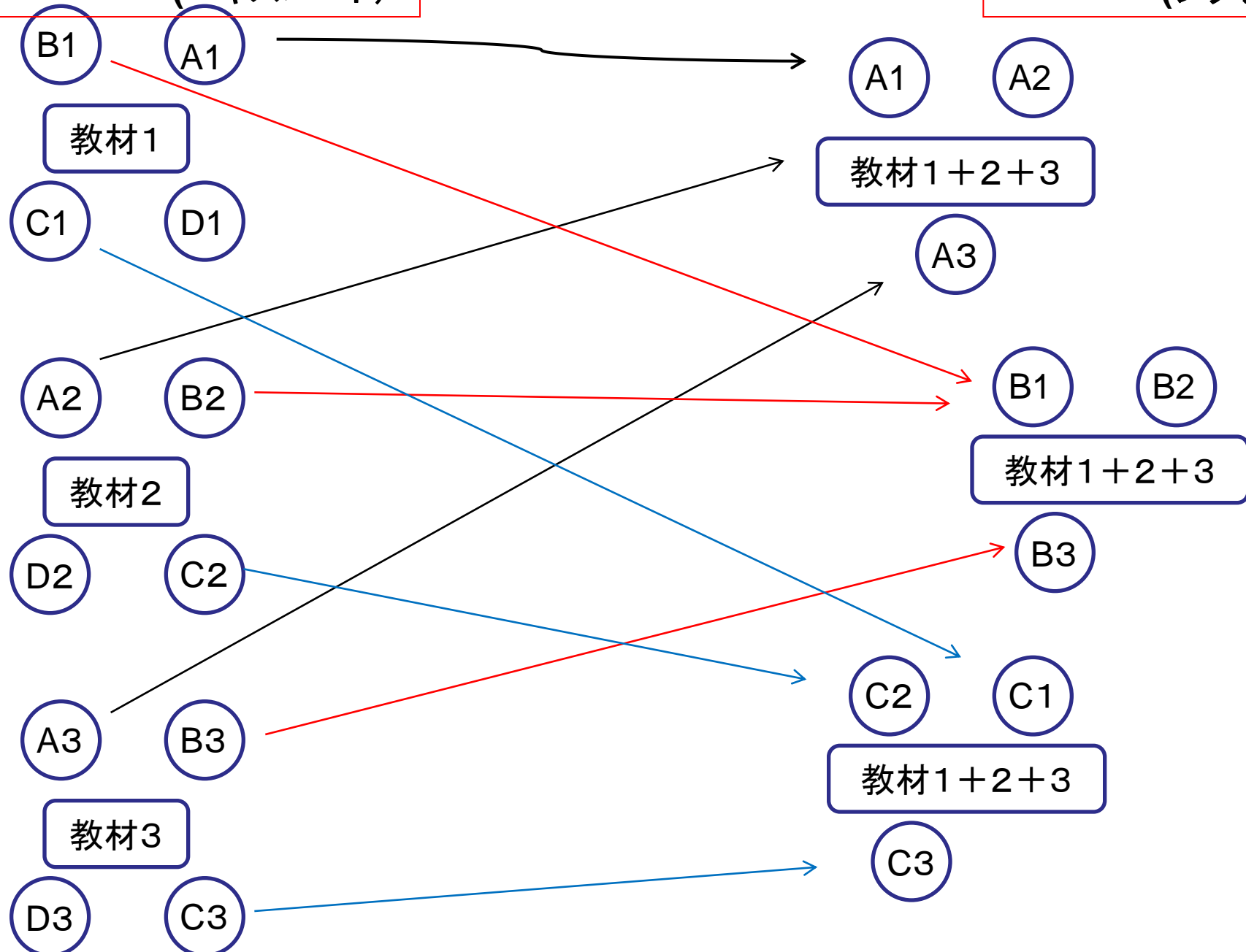
- ・互恵的教授明示
= 大人が説明し練習
- ・互恵的教授暗黙
= 大人が説明せず
- ・練習群
= 1人で読み練習
- ・統制群
= 読まず

(相互的教授法 = reciprocal teaching)

教える子とともに、ヒントを求めたりした教えられた子も理解が深まった

各教材を1人しか知らない
(エキスパート)

各教材をみんなに話す
(ジグゾー)



教職専門性の特徴

- ①クライアントへの倫理的・道徳的コミットメントを実施しながら社会に貢献すること
- ②実践する権利付与の基礎となる体系的学術的知識
- ③実践的な活動の重視、それゆえに実践において知識を実行する必要性
- ④クライアントの様々なニーズと問題の非ルーティーン的な本質によって引き起こされる不確定性、それゆえに知識を適応する判断を発揮させる必要性
- ⑤実践を発展させる経験の重要性、それゆえに自身の実践やその結果を省察することによって学習する必要性
- ⑥知識を発展させる経験の重要性、それゆえに自身の実践やその結果を省察することによって学習する必要性

→“As a researcher”

(L.Shilmen 1998)(『変化する世界における教師養成』2005 以下、
八田幸恵氏の研究2012に基づいている)

まとめ

1. 教師教育における授業研究の再評価と授業研究方法の検討
 - ・学校を基盤とした授業研究とそれに根ざしたカリキュラム開発の比較研究
2. 授業研究方法の再検討
 - ・異文化間での授業参観・聞き取りを含めた実証的で多様な研究方法の比較研究
3. 教員養成系課程・学部・大学での基本課題の精選と教育委員会との連携のあり方の検討
 - ・大学と学校現場との連携・協働のあり方の再構築

ご静聴

ありがとうございました

hatsuo@u-gakugei.ac.jp